

今週（10月2日から10月6日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、揚げ要因が多く、2日のTB3M発行超過、4日の税・保険料揚げ、5日の10Y発行など、需給上の資金不足日が続いていた。また、期末要因が剥落したことや、積みの着地が見えてきたことなどの理由から、これまで調達を控えていた先からの調達が目立つようになり、無担保コールO/N物は徐々に上昇する展開となった。これに加え、13日が年金定時払いを受けての3日積みとなる最終日であることも、強含みの展開に拍車かけた可能性がある。ターム物に関しては引き続き証券業態におけるロール案件を軸に、O/Nレートの上昇を受け、今積み期間内となる1W物は▲0.035%を中心に取引が膨らんだ。

固定金利方式の共通担保オペは5日に2W・8,000億円がオファーされ、落札額は2,035億円（期落ち額2,386億円）となった。

●レポ市場

今週のGC O/Nは、概ね▲0.150～▲0.090%程度で推移した。週初2日のS/Nは、▲0.110～▲0.090%程度の出合い。3日のS/Nは、▲0.110～▲0.105%程度の出合い。4日のS/Nは、▲0.140～▲0.110%程度の出合い。短国3M・6M物の発行日の取引となる5日のS/Nは、▲0.090%前後までレートは上昇。短国・国債買入オペがオファーされた6日のS/Nは、▲0.095%前後まで若干低下した。

SCは個別銘柄では2Y377～380、5Y130～133、10Y334～348、20Y160～162、30Y50～56、40Y9～10等、カレント近辺に引き合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、年末越えのニーズが強く、全般的に堅調な相場展開となる中、2回の短国入札が実施された。新発の入札は、4日に6M物、5日に3M物の入札が実施された。6M物は、WI取引で▲0.170～▲0.166%と強めの出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1643%、按分落札利回▲0.1603%と、来年の3月末越え償還ということもあってか堅調な結果となった。セカンダリーは▲0.175～▲0.170%で推移した。3M物は、平均落札利回▲0.1685%、按分落札利回▲0.1617%と、前日の6M物の入札に引続き、堅調な結果となった。セカンダリーでは▲0.175～▲0.171%で出合った。

本日6日には、短国買入オペが事前予想通りの1兆円でオファーされた。応札額は3兆1,042億円と前回に引続き多めで、結果は平均利回較差+0.003%、按分利回較差+0.002%となった。ここ数日相場が強含んで推移していたことから、利食い売りが出たものと推測される。

●CP市場

今週のCP市場は、期明けとなり、大口ロットでの発行が複数業態で見られるなど、活況なマーケットとなった。特に、建設、不動産、鉄鋼、卸売、ノンバンク等の業態では400億円超の案件が散見され、償還総額3,000億円程度に対して、発行総額は8,400億円程度まで膨らんだ。7月中旬から16兆円台で推移していた市場発行残高は9月末に14兆1,338億円まで急減したが、5日時点で14兆8,073億円程度まで回復している。超低金利で調達可能であるCPを企業は積極活用しており、現時点の残高の戻りは例年よりかなり速い傾向にある。発行レートについては、ロットの大きい物に関しても安定的に消化されており、引続き0%近辺の狭いレンジで推移している。

5日には、CP等買入オペが、前回比500億円増の3,000億円がオファーされた。結果は、平均落札レート0.005%、按分落札レート▲0.003%と、前回比（平均0.006%、按分▲0.003%）で平均レートは若干低下、按分レートは横ばいとなった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 （億円）
10/2（月）	20,400.78	0.070	112.76	△ 0.047	△ 0.092	3,680,600
10/3（火）	20,614.07	0.070	112.93	△ 0.043	△ 0.105	3,688,100
10/4（水）	20,626.66	0.050	112.60	△ 0.035	△ 0.105	3,654,100
10/5（木）	20,628.56	0.040	112.75	△ 0.032	△ 0.108	3,633,100
10/6（金）	20,690.71	0.050	113.00	△ 0.028	△ 0.091	3,639,700

来週（10月10日から10月13日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
10/9 (月)	体育の日				米国祝日(Columbus Day)
10/10 (火)	日銀支店長会議 さくらレポート(=地域経済報告) 9月の景気ウォッチャー調査(内閣府) 8月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50)				
10/11 (水)	8月の機械受注統計(内閣府 8:50) 8月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	TB2M 発行中止	30Y 8,000億円 10/13発行	エネルギー 対策借入 5,500億円 10/20借入	9月の米財政収支
10/12 (木)	9月の企業物価指数(日銀 8:50) 8月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	TB3M 44,000億円 10/16発行			9月の米生産者物価指数
10/13 (金)	9月のマネーストック(日銀 8:50)	流動性供給 5,500億円 10/17発行			8月の米企業在庫 9月の米消費者物価指数 9月の米小売売上高 10月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
10/9 (月)	体育の日								
10/10 (火)	800	▲ 24,000	▲ 23,200	全店共通 CP買入 国債補完	▲ 2,400 ▲ 500 300	2,000	▲ 600	▲ 23,800	TB3M発行▲44000償還37400 TB6M発行▲23000償還14000 10Y物価連動▲4000
10/11 (水)	1,000	1,000	2,000	国債買入 短国買入 CP買入		7,100 10,000 3,000	20,100	22,100	
10/12 (木)	0	1,000	1,000				0	1,000	源泉税揚げ 交付税借入▲10500期日10500
10/13 (金)	0	66,000	66,000				0	66,000	年金定時払い 30Y発行▲8000
週間合計	1,800	44,000	45,800	—	▲ 2,600	22,100	19,500	65,300	

10/10は日銀予想、10/11以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、10日にTB3M・6Mの発行超過、12日に源泉税揚げ、13日に30Y発行、年金定時払いがある。積み最終日に向けた取引動向が注目される。

レボ市場は、引続き投資家の動向次第ではあるものの、▲0.100～▲0.080%程度での推移になると予想する。

短国市場は、12日に3M物の入札が実施予定となっている。足元の需給環境は良好であるが、海外勢の買いが続くかどうか次第であり、レート水準が維持されるかどうか注目にしたい。

CP市場は、12日にCP等買入オペが3,000億円で実施予定となっている。市場残高が積み上がっていないことから、積極的な売却は見られないと考えられる一方、発行レートが0%近辺で膠着していることから、按分レートが大きく流れることも考えづらい。

主要なイベントとしては、13日の9月の米CPIなどが挙げられる。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされましますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によりリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。